

令和5年度 コミュニティ・スクール福津市立福間中学校 学校経営要綱

コミュニティ・スクール福津市立福間中学校
校長 清水 光朗

1 福間中学校区の経営基盤

- (1) 公教育としての学校
- (2) 現代社会の要請に応える学校
- (3) 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成する学校
- (4) 学校・家庭・地域で共育を推進する学校

2 教育課題と経営課題

(1) 教育課題（子どもや教職員等に解決を期待したい課題）

- ア 9年間を見通した学力の向上、及び子どもの実態に合わせた授業への改善
- イ 不登校・別室登校の子どもや、支援を要する子どもの対応や、人権・同和教育に関わる課題や多様性等を尊重する考え方、今後の対応
- ウ 生徒指導の積極的な側面の充実、子どもの自立を育む大人のかかわり方

(2) 経営課題（学校組織として解決したい課題）

- ア 経営の中心である運営委員会・各委員会～学年部会のラインの確立と連絡系統の確立
- イ 人材育成、及び成績・能力のみならず情意面を大切にしたいミドルリーダーの育成
- ウ シティズンシップ教育とコミュニティ・スクールに関する研修の充実とベクトル一致

3 福間中学校区の共育目標

(1) 福間中学校・福間小学校・福間南小学校共通の共育目標（9年間のゴール像）

『福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成』

～学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と子どもの社会力の育成を
目指す新化期コミュニティ・スクールの創造～

(2) 共育目標に対する考え方

① 「福津を愛し、健やかで」とは

福津の豊かで恵まれた自然や環境、歴史や文化とのつながりを生かした学びを通して、ふるさと福津のまちづくり・人づくりの良さを発信できる力をもってほしい。また、学校・家庭・地域が連携・共働した新たなコミュニティ・スクールの推進を通して、子どもたちが自分自身のよさを発見し、自信と誇り、相手を思いやる心や協働の心を持ち、自己有用感を高め、他とかかわる楽しさを見だし、自他尊重の心や態度を培っていくことである。

② 「未来に向けて意欲的に学ぶ」とは

持続可能な社会の担い手として、教育活動を通して社会力を身に付け、10年後の福津市で生きる市民性が育つ学びである。

③ 「学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と子どもの社会力の育成を目指す」

これからの社会がどんなに変化しても、予測困難になっても、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を明確化し連携・共働を図っていくとともに、それぞれが目標を共有し、特にコミュニティ・スクールの活動においては、大人が子どもへの関わり方を見直すとともに、子どもが困難な課題や目標を設定し、周りの人からの支援を受けつつ自らの力で解決に挑み、指導者や子ども同士がその頑張りをほめ、認める

ことを繰り返しながら、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心を伸ばすことである。

4 目指す具体像（子ども像・学校像・教師像・授業像・家庭像・地域像）

(1) 目指す子ども像（人間力を鍛える）

- <自立>自分の強みや弱み、特徴を知り、自分にあった方法で自分を高めることや、人に聞いたり、必要なことを自分で考えて行動したりする子ども。
- <共働>人権感覚が高く相手を尊重した言動ができ、対話により意見の一致を図り合意形成や協力して行動ができる子ども。
- <参画>学校・地域を愛し、よりよい環境を目指すために必要な自分の考えを持ち、それを発言し、積極的にできることに取り組む子ども。

(2) 目指す学校像（学校力を鍛える）

- 思いやりに満ち、あいさつの声が響き渡り、教育環境が美しく整備されている学校
- 文化と伝統を受け継ぐとともに、故郷を大切にしながら未来に向かって挑戦する学校
- 礼節や謙虚さを大切にし、地域に貢献し、地域づくりに積極的に参画する学校

(3) 目指す教師像（教師力を鍛える）

- 児童生徒理解の視点に立った指導をし、目配り・気配り・心配りができる教師
- 教育への使命感と情熱を持ち、常に学び続け、子どもの長所や可能性を伸ばす教師
- 心身ともに健康で、学校経営参画意識を持ち、協働して教育課題の解決に努める教師
※教育公務員としての自覚と責任を再認識し、体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報
の流出防止や公金の適正管理等の不祥事防止に努める。

(4) 目指す授業像（教師力を鍛える）

- 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が明確な授業実践（主体的・対話的で深い学びの実践）
- 生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養を目指す授業実践
- ICT等を積極的に活用し、「わかった」「できた」と感動する授業実践

(5) 目指す家庭像（自立心を鍛える）

- 子どもが自立できるように学校と協働しながら、子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせる家庭
- 子どもとの対話を心がけ、温かいかわりの中で子ども自身に考えさせる家庭
- コミュニティ・スクールを理解し、学校・地域と共働して具体的共育を推進する家庭

(6) 目指す地域像（社会性を鍛える）

- 子どもが地域・社会の担い手となるように、地域の中で社会道徳と共助の精神を涵養し、自己存在感を高揚させる地域
- 学校・家庭と連携協働し、「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」、共存共栄の関係づくりを推進する地域

5 課題解決のための具体的方策

ア 教育課程の改善

- 「総合的な学習の時間」や特別活動の単元の初めに目的意識を持たせる工夫、自ら考え自ら学ぶための支援、単元の見通しを持たせる工夫、単元末に探求結果の発表（表現活動）・評価の場を設定するなど教科横断的な教育活動のカリキュラム編成と最適化
- 福津市民としての市民性を向上させるための、シティズンシップ教育の実践化の推進（知識習得型・体験型・外的資源の活用を通じた実践、参加型共育の推進）
- 自尊感情や効力感を高めるため、授業や長期休業中の宿題、教育課程外のような活動における子どもの学習成果や努力そのものを評価する場の設定
- 個に応じた「学力向上戦略」の策定（自己評価表に見える化）
- 1人1台端末をはじめとするICT機器の活用による情報活用能力の育成と授業実践を市内小・中学校での先進的な実施・交流

イ 校務分掌組織・学年組織の改善と組織運営の機能化

- 学校・学年組織を機能させる報告・連絡・相談の体制構築と徹底、協働での指導・支援の徹底
- 学校行事や総合的な学習の時間における自尊感情や効力感を高める単元構成と評価
- 生徒指導、生徒支援、特別支援を中心とした会議・対応等の対話充実
- 業務改善（教育活動のスクラップ&ビルド）を通じた働き方改革の更なる推進（リフレクシオンタイムの設定）
- 校則検討委員会による校則検討

ウ 教職員の人材育成

- 目標設定および見通しを持たせ、「目標の達成」までの過程の評価を重視し、教職員一人一人のよさの伸長を図る
- 教科学習における研究部より提案される授業スタイル等の完全実施
- 管理職等による授業訪問及び授業アンケートの結果を基にした授業改善の実施
- 教育公務員・社会人としての基礎基本を高める校内OJTの実施
- SDGs、シティズンシップ教育、CS活動、GIGA、体罰によらない生徒指導、生徒とのより良い関係を築き、生徒の自己指導能力を高める指導、保護者との信頼関係を築く接遇の対応、アレルギー等対応などの危機管理研修等の実施
- 飲酒運転、交通事故防止、薬物乱用防止、わいせつ行為行為防止、パワハラ行為防止セクハラ行為防止等の不祥事防止研修の実施

エ 小学校、家庭・地域と連携を重視したコミュニティ・スクールの推進

- 福岡中ブロックの小中学校のできる範囲での児童生徒の交流、教師間交流や積極的な中学校に関する情報の提供
- 福岡中ブロック小中連携推進構想の全職員への周知徹底
- 地域の大人を巻き込んだ社会力の育成

- 地域学校協働活動の推進と地域学校協働本部の機能化
- 自立を育む大人のかかわり方の推進
- 更なる積極的な情報発信

6 令和5年度 学校経営の目標

教職員・保護者・地域のベクトルが揃った学校経営

『学校教育の基盤』

- 子どもの心に安心感を届けるコミュニティ・スクール

『教育活動の基盤』

- 対話・自立と共働と参画・「鍛ほめ福岡メソッド」の展開（大人のかかわり）

『指導の基盤』

- 基本的な生活習慣を徹底指導します。

【私達は生徒会が定めた「五つの誓い」を徹底させ、子どもを支援します。】

- ① 校時を守る（授業に真剣に取り組む）
- ② 清掃作業は全員で行う
- ③ 公共物は大切に使う
- ④ 仲間を大切に使う（差別を絶対にしない）
- ⑤ 言葉遣いを正しくする

【私達は、規律の遵守と見届ける指導を徹底します。】

- 児童生徒理解の視点に立った指導をします。

【私達は、学校での子どもの安心感を支援します。】

- ① 校内教育環境整備と対話の重視
- ② 安心安全
- ③ 鍛えたら、その倍、励ましと称賛を
- ④ 目配り・気配り・心配り

『小中連携の基盤』

- 福間中ブロック三校「共働」の教育活動の推進をします。
キーワード：「つなぐ」「そろえる」「つどう」

7 本年度の重点目標

社会形成・社会参加に関する教育（シティズンシップ教育）の推進

国が予想する2030年（Society5.0）の社会は、多様な価値観や文化で構成され、変化が激しく、その状況下であっても個人としての権利と責務を行使し、より良い社会の実現に寄与する人材の育成が重視されている。ここで行うシティズンシップ教育とは、社会や暮らしの問題に対して、自分事として関り、様々な価値観がある中で、互いの考えを尊重しながら調整し、課題解決への行動をおこし、福津市民としての役割を果たせるようになることを目指す教育である。社会の一員として自立し、権利と義務の行使により、社会に積極的に関わろうとする態度を身に付けるため、社会形成・社会参加に関する教育（シティズンシップ教育）を推進することが必要と考える。

(1) SDGsに関連したシティズンシップ教育の推進について

昨年度は、シティズンシップ教育の理念をベースに教育活動を推進するなかで、子どもたちが課題を自分事として捉えることができるようになってきた。本年度は、SDGsに関連したシティズンシップ教育の推進について、福間中学校の総合的な学習の時間を中心に教育課程を見直し、年間カリキュラムを見直しながら学校教育目標の達成をめざす。これまで実践してきた教育活動の目標を再確認し、各教育活動の系統化をはかりながら、社会に開かれた教育課程の創造を推進するとともに、地域学校協働本部共働体制の推進を図り、大人を巻き込んだ子どもの社会力を育成する特色あるコミュニティ・スクール運営を通して、福津の未来をたくましく切り拓く子どもを育てていきたいと考える。

シティズンシップ教育の展開には、福津市民としての9つのねらいを3つに分類して位置づけ、小中連携した教育課程を系統化させ、学校教育目標への方向性を明確にして全職員で浸透と徹底を図る。さらに、本年度より、総合的な学習の時間をシティズンシップ教育推進の中核に据えて教育課程を実施する。また、9つのねらいを「知る」・「つながる」・「表現する」それぞれ3つに分類し、ここで培われた力を、生徒一人一人が「福津市への具体的な提言ができ、より良い社会を求めて参画することができる」ように、推進体制の確立を目指していきたいと考える。

(2) シティズンシップ教育の「ねらい」について

【分類（知る・つながる・表現する）と、9つのねらい①～⑨】

「知る」

- ①主体的・対話的な学びを通して基礎的基本的な知識や技能を習得し、思考力、判断力、表現力を育成する授業改善を通じた学力向上を図る。
- ②議論する道徳、自発的自治的な学級活動を通じた心力の向上を図る。
- ③目標設定を通して課題解決へのチャレンジを通じた体力の向上を図る。

「つながる」

- ④学ぶこと、働くこと、生きることを学び、自己のキャリア形成を図る。
- ⑤様々な教育活動を通して、基礎的、汎用的能力の向上を図る。
- ⑥地域と学び、地域で学び、地域の課題を考え、地域に貢献しようとする姿勢態度の育成を図る。

「表現する」

- ⑦福津市の未来について、自分の意見を表明し、他者とのコミュニケーションをとりながら課題解決を目指すことができる。
- ⑧多様な立場になって考え、思考力を高めながら、福津市のあるべき姿について探索し提言することができる。
- ⑨学んだことを生かし、よりよい社会を求めて行動（参画）することができる。

8 成果指標

学校経営の評価にあたっては、多面的・多角的な評価となるように、教職員の自己評価はもとより、生徒や保護者のアンケート調査等を活用して客観的な評価に努める。特に次の5点について、成果指標を次の通り定め取り組むこととする。

- 1 学校評価アンケート
学び合い、自尊感情、あいさつ、地域参画の項目における生徒、保護者、教職員
(3.5以上)
- 2 コミュニティ行事等での生徒感想における記述
(自分事として捉えている記述)
- 3 生徒・教職員の地域学校連携活動への参加数
(前年度より増加)
- 4 教師自己評価におけるシティズンシップ教育の推進状況
(意識して実施)
- 5 授業アンケート
(3.5以上)